



新春を迎え

笠間市長 山口伸樹

明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、気持ちも新たに、すばらしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新生笠間市が平成18年3月に誕生して以来、早四年目を迎えることとなりました。昨年は、市政運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。

新年にあたり、今年の抱負を申し上げます。

今年(うし)は「牛の歩みも千里」の気持ちで市政の運営に取り組んでまいります。

◆まちづくりの礎として

昨年は、デマンドタクシーかさまの運行や市民センターいわまの開設、大古山橋の開通、環境基本計画や観光振興基本計画の策定など、ハード・ソフトの両面で、市

政の骨格となる基礎づくりを行ってまいりました。

企業誘致については、今後の事業拡大の見通しや関連企業誘致などの需要を調査し、新たな需要の掘り起こしを行いました。少子化対策については、保育料の軽減事業や子育て支援センターの開設など、子育ての負担軽減を主とした事業を展開してまいりました。

また、市政懇談会については、従来の懇談会に加えて、産業の育成や子育て、子どもの視点での懇談会を開催し、多くの市民の皆様から貴重なご意見を賜りました。

さらに、市税の収納対策としてコンビニ収納を導入したほか、広報紙やホームページなどに有料広告を掲載するなど、自主財源の確保に努めてまいりました。

教育の面では、耐震化が急がれる友部中学校を先駆けに、岩間中

学校の改修工事に着手するなど、笠間市の未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりに努めております。

◆自立した都市を目指して

今年は、昨年後半から続く景気の低迷による市税の減少、三位一体の改革による交付税の削減など、大変厳しい状況になると思われませんが、行財政改革の断行、民間委託や指定管理者制度の活用、行政評価の実施などに取り組み、効果的・効率的な行政サービスと健全な行財政運営を図ってまいります。

特に予算については、昨年引き続き続いてメリハリをつけ、幹線道路の整備、岩間駅周辺整備事業、小中学校の耐震化などの重点事業に積極的に取り組むとともに、引き続き少子化対策、そして新たに農業対策に取り組んでまいります。

す。笠間市の農業に关しましては、特産物の県内出荷量で、梅が1位、菊が2位、栗が3位と、上位にランクされています。しかし、農業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷、農業従事者の高齢化、遊休農地の増大に伴う耕地の荒廃といった多くの課題を抱えております。これらの課題を少しでも解消するため、担い手の育成や地産地消などの農業施策を積極的に展開してまいります。昨年末には、北関東自動車道の茨城・栃木間が全線開通し、常磐自動車道と東北自動車道が直結されたことから、首都圏北部地域を中心とした観光面での誘客、企業誘致の推進などを積極的に行ってまいります。

本年も、職員一丸となって「みんなで作る 文化交流都市」の実現に向けて、市民の皆様とともに一歩一歩前進してまいれる所存でございます。

最後に、今年一年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。私の新年のあいさつといたします。